

キウイフルーツ育種の取り組み

愛媛県オリジナル品種の育成を目指して

1. 新品種の必要性

- ヘイワードに偏った品種構成。
- 1品種では労力分散が難しい。
- ヘイワードの酸味、口腔刺激が苦手な人がいる。
- 他県では食味の優れる新品種の開発が進められている。



2. 育種目標

- 雌品種
- 果肉色 赤色、黄色
 - 糖度 16%以上
 - 酸度 0.5%以下
 - 開花期 ヘイワードと開花期が異なる。
 - かいよう病に強い。
- 雄品種
- 開花期が早いまたは遅い。
 - 花粉量が多い。

3. 2018年に2系統を2次選抜

◎キウイフルーツ愛媛3号

交配組合せ *A.deliciosa* 偶発実生 (6倍体)

果実重 100g程度

糖度 15~16° Brix

酸含量 0.4g/100ml程度

収穫期 11月上旬
ヘイワードとほぼ同時期

果肉色 緑

かいよう病 ヘイワードと同程度

特徴 ヘイワードより風味が良い
果形がナス型で区別性が高い



縦長のナス型



イライラ感が少なく
爽やかな風味

◎キウイフルーツ愛媛4号

交配組合せ 07RS28 × EMC-1
(レインボーレッド × スパークラー) ×
(レインボーレッド × スパークラー)

交配年 2012年

果実重 90~110g程度

糖度 17° Brix

収穫期 10月上旬
レインボーレッドとほぼ同時期

果肉色 黄色 (果心部の赤が強い)

かいよう病 *A.chinensis* 2倍体であり弱い



国産で最も赤い
ブラッドキウイ



かいよう病対策で
雨よけ試験も開始